

平成 27 年 1 月 13 日



Press Release

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

安全セミナー 「ヒューマンファクター」 から考える安全

の開催について

安全対策の分野で人的要因に焦点をあてたアプローチである「ヒューマンファクター」に関心が高いことから、昨年度に引き続き「ヒューマンファクター」をテーマとし、人間の特性を人間工学や安全マネジメントの視点から深く掘り下げ考える安全セミナーを開催いたします。

また、今年度の安全セミナーは上期に実施した「災害と危機管理」と併せ 2 回目の開催となります。

1. 日 時 平成 27 年 3 月 19 日 (木) 13:30～16:30
2. 会 場 神戸新聞松方ホール (神戸情報文化ビル 4F) ※JR 神戸駅徒歩 10 分
3. 内 容 (敬称略)
 - (1) 主催者挨拶
公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団理事長 佐々木 隆之
 - (2) 講演
「鉄道のヒューマンエラー事故防止に向けて」
公益財団法人鉄道総合技術研究所 研究開発推進室
主管研究員 鈴木 浩明 (すずき ひろあき)

『3 つの真理』を基礎に築く安全・安心体制ー新しい安全マネジメントの視点ー
株式会社安全マネジメント研究所
代表取締役所長 工学博士 石橋 明 (いしばし あきら)
4. 定 員 500 名 (参加無料・要事前申込)
5. 主催等
主催：公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
協力：西日本旅客鉄道株式会社、関西鉄道協会
6. 応募方法
 - ・ J R 西日本あんしん社会財団ホームページ (<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>) から平成 27 年 2 月 13 日 (金) までにお申込みください。
 - ・ ご参加いただける方には 3 月 6 日 (金) までに参加証を郵送します。
なお、応募者多数の場合は、抽選のうえ結果をメールにてお知らせします。
7. その他
当日の取材は可能です。取材をご希望の場合は、3 月 13 日 (金) 17:00 までに当財団までご連絡いただきますようお願いいたします。

<参考> 講師の略歴

鈴木 浩明 (すずき ひろあき)

公益財団法人鉄道総合技術研究所 研究開発推進室 主管研究員

昭和 63 年 早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程修了

平成 元年 財団法人鉄道総合技術研究所に入所

以後、ヒューマンエラー事故防止、車内快適性の向上、鉄道車両・設備のユニバーサルデザイン化などに関わる研究開発に従事

平成 10 年 早稲田大学より博士 (人間科学) の学位を授与

平成 13 年 人間工学研究室長

平成 19 年 人間科学研究部長

平成 25 年 4 月より現職



(講演概要) 鉄道のヒューマンエラー事故防止に向けて

いくら気をつけていても、人はたまにエラーを起こしてしまいます。思い込み、聞き間違い、慣れ、失念。エラーの種類や程度は様々です。中には、笑い話で済むようなエラーもありますが、時にはエラーが深刻な事故へとつながります。旧国鉄時代も含め、鉄道総研では約 50 年に渡って、ヒューマンエラー事故を防ぐための研究を推進してきました。本日の講演では、まず「人はなぜエラーをしてしまうのか」について、いくつかの具体的な事例を引用して解説します。次いで、指差喚呼の効果体験プログラムや事故のグループ懇談手法、事故の聞き取り手法など、ヒューマンエラー事故を防止するための最近の主な取組み事例を紹介します。

石橋 明 (いしばし あきら)

株式会社安全マネジメント研究所 代表取締役所長 工学博士

昭和 44 年 中央大学法学部卒業

平成 7 年 早稲田大学大学院人間科学研究科でヒューマンファクターズの研究に従事 (社会人研修生)

平成 11 年 全日空で飛行時間 19,500 時間を記録した後、全日空機長をリタイアその後、ヒューマンファクター研究所を設立

平成 17 年 JR 西日本安全諮問委員、JAXA 有人サポート委員、東北大学未来科学共同研究センターリサーチフェロー、などを歴任し、現在は JR 西日本安全研究所客員研究員、国土交通省航空保安大学校部外講師等を歴任

平成 22 年 9 月東北大学大学院工学研究科博士課程後期 3 年の過程を工学博士取得により終了

平成 23 年 株式会社安全マネジメント研究所を設立、代表取締役所長に就任



(講演概要) 『3つの真理』を基礎に築く安全・安心体制ー新しい安全マネジメントの視点ー

未知の部分が多かった航空分野では、1970 年ごろからヒューマンファクターズに関する研究並びに取り組みが本格的に展開されてきた。「空は危険である」などの「三つの真理」をベースに、考えられるすべての安全対策を可能な限り実践してきた結果、今日のような安全実績を蓄積してきた。安全報告制度による予防安全の推進、CRM 訓練による前向きなチーム能力向上訓練の普及などを経て、近年では「SMS (運輸安全マネジメントシステム)」を取り入れている。他の産業分野との交流を行い研究成果も積極的に取り入れて、新しい安全マネジメント手法を開発し続けている。産業安全対策に終わりはない。